

J R 東日本労働組合

NAGANO

E-mail naga-30-naga@hotmail.co.jp



2022年 5月 31日 No. 441

JR東日本労働組合

長野地方本部

発行者：臼井幸一

編集：情宣部

2022夏季手当満額獲得のたたかいスタート！ 全組合員・全社員でたたかいをつくりだそう！③



2022年度夏季手当第1回交渉が5月27日に行われる！

東日本ユニオンは5月27日の第1回交渉で会社側に対して「要求趣旨」説明を行いました。

- ・コロナ禍でも輸送品質を維持し、全社員が一丸となってエッセンシャルワーカーとして社会的使命を果たしている。
- ・期末決算は社員の奮闘により業績予想が純利益を529億円も押し上げ、対前年4,074億円増とV字回復している。
- ・昨年度の定期昇給は「2係数」、手当は「年間4.0ヶ月」。営業費用のコントロールに社員の賃金・手当の抑制があったことを見過ごすことはできない。
- ・ゴールデンウィーク期間のご利用状況は対前年比217%と堅調に推移している。
- ・施策を担う人材たる社員一人ひとりの労働力の質と量は確実に増えている。労働密度が高まり、生産性を向上させている努力が確実に会社の発展につながっている。将来を見据えて今を生きる社員に期末手当を通じた賃金による投資に「コスト意識」を持つべきではない。
- ・社員とその家族が生きていくために必要な生計費は月例賃金だけでは足りない。期末手当が生計費になっていて生活水準の維持さえ厳しい現実に立たされている。
- ・東日本ユニオンは2022春闘でベアを要求せず、定期昇給4係数の実施のみとした。賃金改善は退職まで長期にわたり影響を及ぼすことから理性的要求にとどめた。年功序列賃金と終身雇用の堅持を最優先し、会社の将来を考えて当社の持続的成長を成し遂げていくとした東日本ユニオンの決意である。
- ・夏季手当は一時金。自らの未来を描けず会社の未来をだけ描くことはできない。社員が生活の不安に怯えることなく、仕事に夢中になれる環境をつくることは経営側の責務である。
- ・一部の社員のみが加算を受ける「成績率(増額)」は資金調達をしてまでの3.0ヶ月の満額回答をしたうえで運用すべきである。

3.0ヶ月満額回答を勝ち取るために各職場からたたかいをつくりだそう！

2022年度夏季手当に関する申し入れ 第2回団体交渉 6月3日(金) 14:00~